



Asianux Server 3

リリースノート



Asianux Server 3 リリースノート

(C) 2007 MIRACLE LINUX CORPORATION. All rights reserved.

Copyright/Trademarks

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。

Asianux は、ミラクル・リナックス株式会社の日本における登録商標です。

RPM の名称は、Red Hat, Inc. の商標です。

Intel、Pentium は、Intel Corporation の登録商標または商標です。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

目次

第 1 章 製品特長の概要	1
1.1 信頼性と拡張性の向上.....	1
1.2 耐障害性の向上.....	1
1.3 ドライバの改善.....	1
1.4 システム管理.....	1
1.5 エッジサーバ、スモールオフィスサーバ向け機能.....	2
1.6 インストーラの強化.....	2
1.7 言語対応.....	2
1.8 セキュリティ.....	2
1.9 印刷環境.....	2
1.10 JAVA 環境の統合.....	3
1.11 Oracle との親和性.....	3
1.12 標準準拠.....	3
1.13 ハードウェアの互換性.....	3
1.14 ソフトウェアの互換性.....	3
1.15 他のディストリビューションとの互換性.....	3
第 2 章 システム要件	4
第 3 章 製品構成	5
第 4 章 留意事項	6
4.1 SSH サービスの利用.....	6
4.2 NFS サーバと NFS クライアントの利用.....	6
4.3 Xen の利用開始.....	6
4.4 MTA の変更.....	7
4.5 プリンタの閲覧と設定.....	7
4.6 X 起動時のファイルの読み込み.....	7
4.7 新しい mcinfo コマンド.....	7
4.8 ドライバの更新について.....	7
第 5 章 制限事項／既知の障害	9
5.1 インストール時の VT 切り替え.....	9
5.2 A320 SCSI Host RAID 用ドライバ.....	9
5.3 Kexec/Kdump と特定のビデオカードとの衝突.....	9
5.4 NFS インストールとディレクトリ配置.....	9
5.5 MegaRAID SAS のエラー.....	9
5.6 Xpdf と日本語(マルチバイト)ファイル名.....	10
5.7 日本語(マルチバイト)のプリンタ名.....	10
5.8 Newt アプリケーションでの日本語入力.....	10
5.9 Telnet サーバの DNS なしでの動作.....	10
5.10 Acrobat Reader 7.0.....	10
5.11 古い libstdc++ 共有ライブラリを使用するアプリケーション.....	11
5.12 Geronimo と Resin の動作.....	11
5.13 GFS2.....	11
5.14 Ext3 FS の拡張.....	11
5.15 RedCastle のカーネルモジュール.....	11
第 6 章 サポート SLA 特記事項	12
第 7 章 フィードバック／正誤情報	14

修正履歴

2007年9月13日	初版作成
2007年9月27日	サポートSLA 特記事項でソースDVDをサポート範囲外項目に追加

第1章 製品特長の概要

Asianux Server 3 には次の特長があります。

1.1 信頼性と拡張性の向上

- Memory hotplug に対応しました。対応した機器では稼働中のメモリ交換が可能です。
- inotify によるファイル作成／修正／削除イベントトリガに対応しました。
- プロセス監視などに使用できる Process event connector に対応しました。
- hugetlb ページ用の shared page table に対応しました。
- NFS クライアント、サーバ両方で NFS over TCP に対応しました。

1.2 耐障害性の向上

- 従来の diskdump および netdump に替わって kexec を利用した kdump に対応しました。これによりダンプ時の信頼性が向上しました。
- Systemtap に対応し、パフォーマンスや機能上の問題の調査がより容易に行えるようになりました。

1.3 ドライバの改善

- ICH9 コントローラをサポートしました。
- SATA サブシステム全体が 2.6.22-rc3 相当にアップデートされています。
- e1000e ドライバが PCI Express ベースのカードをサポートするため追加されました。PCI ベースのカードは引き続き e1000 ドライバでサポートされます。
- 82575 Ethernet コントローラをサポートのため、igb ドライバが追加されました。

1.4 システム管理

- Red Flag コントロールパネルおよび管理ツールを含んでいます。
- OpenDRIM プロジェクトにより、ほとんどの管理ツールがリモートシステム管理に対応しました。複数台の Asianux Server 3 を、単一の GUI コンソールから管理できます。
- Asianux Technology Service Network(TSN)と一緒に利用できる Asianux TSN Updater が含まれています。

1.5 エッジサーバ、スモールオフィスサーバ向け機能

- メール: MTA の変更、SMTP Auth、SpamAssassin による迷惑メール対策に対応しています。
- Web DB: php-oci8、php-mysql、php-pgsql など Web システムで DB を扱えます。
- Samba: 国際化および Windows Vista クライアントに対応した Samba 3.0 を搭載しています。

1.6 インストーラの強化

- UI が Asianux Server 3 用に一新されました。
- ネットワークカードの Bonding 設定に対応しました。

1.7 言語対応

- 日本語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語、英語に対応しています。
- 日本語
 - UTF-8 環境に対応しています。
 - 高品質な日本語フォントを利用可能です。
- 中国語(簡体字、繁体字)
 - GB18030、Big5 環境に対応しています。
 - 高品質な中国語フォントを利用可能です。
- 韓国語
 - EUC-KR、UTF-8 環境に対応しています。
- インプットメソッド
 - インプットメソッドとして SCIM に対応しています。
 - 霞による単語登録に対応しています。

1.8 セキュリティ

- 韓国 RedGate 社のセキュア OS、RedCastle を統合しています。
- ACL によるセキュリティ拡張設定に対応しました。

1.9 印刷環境

- CUPS(Common Unix Printing System)による印刷環境を提供します。これは国内主要メーカーのプリンタドライバを予め含んでいます。
- OpenPrinting による印刷環境に対応しています。

1.10 JAVA 環境の統合

- Sun Microsystems 社の Java SE Development Kit 6 を統合しています。(x86 版、x86-64 版)

1.11 Oracle との親和性

- oranavi (Oracle Install Navigator) によって、Oracle 製品を使ったシステムを簡単に構築可能です。
- Oracle 製品向けに、システムパラメータを最適化しました。
- Oracle 用の PHP モジュール(`php-oci8`)を提供しています。
- OCFS2 が利用可能です。

1.12 標準準拠

- LSB 3.0 に準拠します。
- CGL 3.2 に準拠します。

1.13 ハードウェアの互換性

- Intel IA-32, 64bit Intel Xeon プロセッサ搭載サーバに対応します。
- AMD AMD64 プロセッサ搭載サーバに対応します。

1.14 ソフトウェアの互換性

- データベースやアプリケーションサーバ、ミドルウェア、バックアップ、ジョブ管理、そのほかの企業向けアプリケーションなどの数多くのアプリケーションに対応します。最新の対応ソフトウェアの情報は、次の URL で提供しています。

<http://www.miraclelinux.com/products/linux/software/>

1.15 他のディストリビューションとの互換性

- Asianux Server 3 が提供するほとんどのランタイム環境、および SATA サブシステムを除くカーネルシンボルは、Red Hat Enterprise Linux 5 相当と互換性があります。
- Red Hat Enterprise Linux 5 用のバイナリドライバを直接利用することができます。

第2章 システム要件

Intel および互換 CPU を使用した、次の条件を満たす PC/AT 互換機をサポートします。

CPU	- x86 版 Pentium 4 以降 - x86-64 版 Intel 64bit Xeon (EM64T 対応プロセッサ)、もしくは AMD64 対応プロセッサが 必須
メモリ	512MB 以上
ハードディスク	空き容量 8GB 以上を推奨
ビデオカード	SVGA (800×600) 以上の解像度に対応したものが必須。XGA (1024×768) 以上 を推奨。対応機器は、次のウェブサイトから X11R7.1.1 の項目で確認してくださ い。 http://www.x.org/

各機種個別の稼動報告については、最新の情報を順次弊社ウェブサイトに掲載しますので確認してください。

<http://www.miraclelinux.com/>

なお、上記の条件を満たすすべての機器の動作を保証するものではありません。

第3章 製品構成

本製品を構成する主要ソフトウェアとそれぞれのバージョンは次のとおりです。

ソフトウェア名称	バージョン
Kernel	2.6.18
GLIBC	2.5
GCC	4.1.1
X.Org	1.1.1
RPM	4.4.2
KDE	3.5.5
OpenSSH	4.3p2
BIND	9.3.3
ISC DHCP	3.0.5
OpenLDAP	2.3.27
Postfix	2.3.3
sendmail	8.13.8
vsftpd	2.05
Squid	2.6.STABLE6
Apache	2.2.3
PHP	5.1.6

ソフトウェア名称	バージョン
MySQL	5.0.22
PostgreSQL	8.1.9
Samba	3.0.24
NTP	4.2.2p1
Net-SNMP	5.3.1
iSCSI	6.2.0.742
iptables	1.3.5
Perl	5.8.8
Python	2.4.3
Ruby	1.8.5
ornavi	10.3
CUPS	1.2.4
Ghostscript	8.15.2
Subversion	1.4.2
Firefox	1.5.0.12
Dovecot	1.0

第4章 留意事項

4.1 SSH サービスの利用

Asianux Server 3 では、SSH サービスはデフォルトで off になっています。必要に応じて起動設定を行ってください。

```
# chkconfig sshd on (常に作動させたい場合)
# service sshd start
```

また、root ユーザーはデフォルト状態ではログインできません。次のようにするとこの動作を変更できます。
/etc/ssh/sshd_config ファイルの PermitRootLogin の値を yes に変更します。

```
PermitRootLogin yes
```

sshd を再起動します。

```
# service sshd restart
```

4.2 NFS サーバと NFS クライアントの利用

NFS サーバおよび NFS クライアントを利用するには、portmap サービスを最初に作動させる必要があります。

```
# chkconfig portmap on (常に作動させたい場合)
# service portmap start
```

4.3 Xen の利用開始

インストール時に「仮想化」にチェックを入れた場合、Xen がインストールされますが、Xen をはじめて利用する前に Xen 関連のサービスを作動させるよう設定を変更する必要があります。

```
# chkconfig xend on
# chkconfig xendomains on
# service xend start
# service xendomains start
```

4.4 MTAの変更

Asianux Server 3 のデフォルトの MTA は postfix ですが、これを sendmail に変更するには次のようにします。
postfix サービスを停止します。

```
# service postfix stop
```

alternatives コマンドを使用すると MTA を選択できます。

```
# alternatives --config mta
```

sendmail サービスを開始します。

```
# service sendmail start
```

4.5 プリンタの閲覧と設定

プリンタの閲覧や設定を行うツールには KDE の「プリンタ」コントロールパネル(kcsmshell printers)および CUPS の Web インターフェース(<http://localhost:631/>)が利用できます。デフォルトではそのサーバが属するサブネット上の閲覧が許可されています。他のサブネット上のプリンタともやり取りするには、`/etc/cups/cupsd.conf` の 25 行目を次のように変更します。

```
BrowseAllow ALL
```

4.6 X 起動時のファイルの読み込み

Asianux Server 3 では、X 起動時のファイルの読み込みが変更になっています。従来 `xinput.sh` は `~/xinput.d/` または `/etc/xinit/xinput.d/` からファイルを読み込んでいましたが、`~/xinputrc` および `/etc/X11/xinit/xinputrc` を読むようになりました。

4.7 新しい mcinfo コマンド

Asianux Server 3 より、`mcinfo` コマンドが強化されています。新しい `mcinfo` コマンドでは収集するデータサイズが大きくなったため、出力先が標準出力からアーカイブファイルファイル(`mcinfo-<ホスト名>-<日付>.tar.bz2`)に変更になりました。なお、パイプやリダイレクションを使用した場合、従来どおり標準出力を利用します。

4.8 ドライバの更新について

Asianux Server 3 では、起動デバイスに関連する `kmod` パッケージ群によるドライバの更新によって `initrd` イメージが新たに作成されます。そのため、多くの `kmod` パッケージがシステムにインストールされていると、それらのアップデート時に `/boot` パーティションの利用が急激に増大し逼迫する可能性があります。

第5章 制限事項／既知の障害

5.1 インストール時の VT 切り替え

次のハードウェアについては、インストール時に Alt+Ctrl+Function キーによる VT 切り替えが正しく作動しないことが確認されています。

- ATI Technologies Inc ES1000

5.2 A320 SCSI Host RAID 用ドライバ

Install CD (1 of 3)内の/images/Adaptecにある a320raidドライバは正しく利用できません。

5.3 Kexec/Kdump と特定のビデオカードとの衝突

次のハードウェアについては、X Window システムをネイティブドライバで使用した場合、Kexec/Kdump が正しく作動しないことがあります。Kexec/Kdump を利用する場合は、vesaドライバを使用してください。

- ATI Technologies Inc Rage XL

5.4 NFS インストールとディレクトリ配置

NFS インストールのために NFS サーバを設定した際、ISO イメージとその展開後のツリーが同じディレクトリに配置されていると、インストーラが正しく状態を把握できずエラーになります。いずれか一方を置くようにしてください。

5.5 MegaRAID SAS のエラー

megaraid_sasドライバがシステム起動時に次のようなエラーを報告することがあります。

```
sda: test WP failed, assume Write Enabled
```

この場合ファームウェアを 1.03.60-0255 以降にアップデートしてください。

5.6 Xpdfと日本語(マルチバイト)ファイル名

PDFを閲覧するために使用するXpdfは、日本語(マルチバイト)ファイル名をサポートしていません。同様の機能を持つKPDFは、PDFのバージョンによっては正しく内容を表示できないことがあります。このような場合は、ファイル名を英語に変更し、Xpdfを使用してください。

5.7 日本語(マルチバイト)のプリンタ名

KDEの「プリンタ」コントロールパネルを一般ユーザーで起動した後管理者モードに切り替えると、日本語(マルチバイト)のプリンタ名が正しく表示されません。この問題を回避するためにはCUPSのWebインターフェースを使用する必要があります。

5.8 Newtアプリケーションでの日本語入力

Newtライブラリで作成されたアプリケーションソフトウェア上で、入力フィールドに対して日本語入力を行った場合、画面が崩れるなどの症状が出る場合があります。ただし、入力自体は正しく行われているため、利用には支障ありません。

5.9 TelnetサーバのDNSなしでの動作

Telnetサーバは、`/etc/resolv.conf`にDNSの設定のない状態で作動しません。`telnet-0.17.38.1AX`以降にアップデートした後、`/etc/xinetd.d/telnet`ファイルの内容を次のように“-c”オプションを付加するよう修正します。

```
service telnet
{
    disable          = no
    flags            = REUSE
    socket_type      = stream
    wait            = no
    user             = root
    server           = /usr/sbin/in.telnetd
    server_args      = -c
    log_on_failure  += USERID
}
```

DNSサーバへの問い合わせを行わないことは、セキュリティの低下をもたらすため、特にDNSのない環境でTelnetサーバを利用したいとき以外はこの指定を行わないでください。

5.10 Acrobat Reader 7.0

Acrobat Reader 7.0 (`acroread`)はそのままでは正しく作動しません。この問題を解決するには次のようにします。

`/usr/bin/acroread`の590行目を次のように変更します。

```
echo $mfile| sed 's/libgtk-x11-\([0-9]*\).0.so.0.\([0-9]*\)00.\([0-9]*\)\|(\.*)/\1\2\3/g'
```

続いて、930行目付近に次の一行を追加します。

```
export GTK_IM_MODULE=xim
```

このようにすると、古い libstdc++ 共有ライブラリを使用するアプリケーション(バイナリ)が起動しない問題を回避することができます。詳しくは次の項目を見てください。

5.11 古い libstdc++ 共有ライブラリを使用するアプリケーション

GCC 4.0 における C++ の ABI 変更により、古い libstdc++ 共有ライブラリを使用するアプリケーションと新しい libstdc++ 共有ライブラリを使用する SCIM との間で競合が発生します。その場合、次のように環境変数を指定してアプリケーションを起動することで動作不良を回避できます。

```
$ GTK_IM_MODULE=xim <アプリケーション名>
```

将来的には、古い libstdc++ 共有ライブラリを使用する必要があるこのようなアプリケーションのために、scim-bridge パッケージの提供を予定しています。

5.12 Geronimo と Resin の動作

Geronimo および Resin を正しく作動させるには、IBM J2SDK を別途ダウンロードしインストールする必要があります。

5.13 GFS2

Asianux Server 3 は、GFS を改訂した GFS2 カーネルドライバが含まれています。しかし本機能は十分に検証が行われていないため、技術プレビューとして扱われ、GFS2 を利用するための各種ツール群は配布セットに含まれていません。将来的に、常用可能な段階に達した時点で GFS2 用のツールの提供を開始する予定です。

5.14 Ext3 FS の拡張

Asianux Server 3 では Ext3 FS の最大ファイルシステムサイズは従来の 8TB から 16TB まで拡張されましたが、8TB を超える利用については技術プレビュー段階にあります。将来的に、十分な検証をパスした時点から、8TB を超える利用のサポートを開始する予定です。

5.15 RedCastle のカーネルモジュール

x86 版において、セキュア OS の RedCastle が提供するカーネルモジュールは、modinfo コマンドで調査した際にライセンスを GPL と表示します。しかし、これは Asianux Server 3 開発初期に x86 版カーネルにあったバグを一時的に回避するための処置が残ってしまったためであり、実際には RedCastle のカーネルモジュールはクローズソース形態のライセンスで提供されています。現在はカーネルの問題は修正されているため、誤ったライセンス情報を表示するこの不具合は Asianux Server 3 リリース後直ちに修正されます。なお、この問題は x86-64 版では発生しません。

第6章 サポート SLA 特記事項

Asianux Server 3 インストールメディアの収録物のうち、次の表にある機能やパッケージは、サポート SLA(サービスレベルアグリーメント)にて定義された技術サポートサービスの範囲外となります。

Install CD の特定のディレクトリ以下に 収められているパッケージやドライバ	Install CD (1 of 3)	<ul style="list-style-type: none">● /images/Adaptec● /images/HighPoint● /Unsupported
	Install CD (2 of 3)	<ul style="list-style-type: none">● /Unsupported
	Install CD (3 of 3)	<ul style="list-style-type: none">● /Unsupported
Source DVD に収められている全てのパッケージ		
特定の機能	仮想化	<ul style="list-style-type: none">● Xen
	ミドルウェア	<ul style="list-style-type: none">● Tomcat● Geronimo● Resin
	セキュリティ	<ul style="list-style-type: none">● RedCastle セキュア OS
	ファイルシステム	<ul style="list-style-type: none">● GFS2● 1 パーティションで 8TB を超える Ext3 FS

技術サポートサービスの範囲は、次の URL にある文書で確認いただけます。

ミラクル・リナックス サポート SLA(サービスレベルアグリーメント) Asianux 版
http://www.miraclelinux.com/service/support/linux/pdf/asianux_support_sla.pdf

第7章 フィードバック／正誤情報

私たちは常に Asianux Server 3 の改良に努めております。Asianux Server 3 を使用するうえにおいて、お気づきの点や要望等ございましたら、次のメールアドレスにメールをいただけると幸いです。

feedback@miraclelinux.com

また、製品付属のドキュメントおよびマニュアルに不備が見つかった場合、次の URL にてフォローアップを行っておりますので、併せてご覧ください。

<http://www.miraclelinux.com/update/linux/manbug/>

謝辞

Asianux Server 3 開発にあたり、
多くの方にβテストにご協力いただきました。
ありがとうございました。

「敬称略」

秋沢 勇

姉崎 章博

荒井 孝昭

石黒 達夫

今泉 克己

今谷 信介

浦野 明裕

片瀬 由則

草田 泰匡

黒田 光洋

小池 稔

小森 佳亨

坂本 成俊

佐藤 拓光

佐藤 直哉

関口 尚亮

芹野 謙太郎

武田 哲

田部 誠

玉川 敏一

力 美有樹

永井 寛之

春田 真邦

藤井 律男

船越 洋明

枡形 誠二

増田 浩樹

村野 葉月

山口 徹

(50 音順)

Asianux Server 3 リリースノート

2007 年 9 月 18 日 初版発行

2007 年 9 月 28 日 第二版発行

発行 ミラクル・リナックス株式会社

Copyright (C) 2007 MIRACLE LINUX CORPORATION.